

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアクセス北梅田		
所在地	大阪市北区本庄西1-9-12		
自己評価作成日	平成 24年 4月 14日	評価結果市町村受理日	平成 24年 7月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2794100020&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2794100020&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 5月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・明るく笑顔の絶えない施設。・広々とした共有スペース。</p>
------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大阪の都心、また駅から徒歩5分という交通の便のよい立地条件に建てられた、10階建てビル2階にあるグループホームです。2つのユニットをバリアフリーにして、利用者が自由に歩き来できるようになっています。「都会のオアシス、毎日が新しい楽しい暮らし」をモットーに、「利用者様とご家族の幸せづくりのために、愛情と情熱に支えられた高度で質の高い介護」を目指すサービスを実践しています。職員のフレンドリーなチームワークは、家庭的な明るいホームの雰囲気を作っています。運営推進会議で出た意見は、サービス向上に積極的に活かしています。利用者の暮らしを豊かにしていこうと考える職員の創意が期待されるグループホームです。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を明記し転所に貼り出し、常々意識する様全員が心掛けている。	アセススタッフの約束として、「仕事に情熱と愛情をもてる職場であることを誇りとします。」目指すサービスは、「利用者様とご家族の幸せづくりのための、愛情と情熱に支えられた高度で質の高い介護。」を職員全員で考え実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎日の買い物は近隣を利用している。 ・町内会に入り、町内行事で参加出来るものに関しては出来るだけ参加している。	町内会に入り、地域での桜まつり、盆踊り、敬老会等に参加しています。地域の幼稚園児がホームを訪れ、利用者との交流もあります。買い物は近隣を利用し、地域との関係作りを大切にしています。オレンジ色の職員のユニホームは、地域にも馴染みになりつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	当施設の存在を理解して頂く為、機会があれば地域の人々と会話をする様に心掛けてはいるが、活かされているかどうかはわからない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域包括センターの方、地域の自治会長様から色々話を伺う機会があり、施設の行事等に活かしている。	運営推進会議要項を策定し、要項に基づいて会議を開催しています。参加者は家族会、自治会長、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会会長、地域のグループホーム職員等幅広く、委員からの意見や助言を取り入れ、サービス向上に活かしています。助言からサービスの在り方について改善した例があります。会議は、利用者の暮らしぶりが見えるフロア内で行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の担当者、社会福祉協議会ボランティアビューローの担当者からの情報を取り入れ、出来る事があれば協力させて頂いている。	地域のふれあいフェスタ等、行事の時に意見交換を行っています。自己評価、外部評価、目標達成計画の報告については、今回分から市へ提出する意向が確認できました。地域包括支援センター職員や社会福祉協議会から、研修や介護者家族会開催の情報を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、入居者の安全の為に、行わざるをえないと考えています。	高齢者施設での虐待のニュースに皆で話し合い、虐待防止の確認を行い、意識を高めています。身体拘束に関しては現在、家族の同意を得て4本柵の利用者が一人います。ホーム入口の施錠はなく、ユニット間を自由に行き来できる状態ですが、エレベーターは、暗証番号が随時変化するため、利用者が開けることはできない状況です。	身体拘束に関して話し合いをしています。が、今後、身体拘束をせずに安全確保を行うケアを積極的に検討されることが期待されます。また、鍵をかけた中での暮らしは利用者にとってどのような心境であるか、今後皆で考える機会を設けることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では、知る限り虐待行為はありません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、当施設では重要であり、スタッフも勉強し、要望があれば入居者家族とも話しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分に時間をとり、理解・納得して頂いた上での契約である様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会を設けている。</li> <li>・家族来所の折りは必ず現況報告と共に御意見を伺うよう努めている。</li> </ul>	<p>家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族の来訪時に声かけをする等働きかけています。家族の提案から、居間の有効利用について改善された例があります。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の社内会議の上で、職員からの意見等は代表者に伝え、会議で取り上げたことは職員に伝える様努めている。</p>	<p>管理者やユニット主任は、職員間の関係を良好に保ち、意見や提案が出しやすい雰囲気づくりを図っています。職員の提案から、労働条件の格差について改善された例があります。運営会議の内容について、全職員が周知できるように、申し送りノートや朝礼時に報告しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内会議の場で職員の現況は必ず報告している。</li> <li>・個々の努力により低額ではあるが、ベースアップの努力をしている。</li> <li>・サービス残業はさせない様努めている。</li> </ul>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>出来るだけ個々に見合った研修を受けさせる様に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域には当施設を含め2つしか同業者はないが、各運営推進会議に出席し、意見交換や勉強をさせて頂いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントを元にして、出来るだけ話しかけ、話を聞く様、全スタッフが取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後も来所の際には声かけや話を聞き不安を取り除き、信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を伺い、必要に応じ他のサービス(訪問看護、PT、マッサージ、訪問歯科等)の説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態により難しい時もあるが、出来る限り対等に近い関係であるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を出来るだけこまめに伝え、家族様に協力して頂ける事はお願いして、協力体制を作れる様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人誰でもいつでも来訪して頂いて構わない事を入居前から伝えている。	利用者の友人や近所の方がホームに訪問されることがあります。行事で出かけたついでに、入居前に住んでいた家を見に行く等、これまでの馴染みの場所との関係を大切にしています。利用者が年賀状や暑中見舞いを家族や友人に出す取り組みも行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との関わりが難しくなっている入居者が多く、なってはきているが孤独でいることがない様、声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所理由がほとんど死亡又は長期入院で、家族との関係を継続させていく事が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは本人の意向に添える様努力しているが、把握が困難な場合が多い。	入居時に聞き取ったことをアセスメントシートに記載しています。日々の生活の中で利用者から聞き取れた希望である、たこ焼きパーティーを一緒に行う予定です。家に帰りたいという利用者の気持ちに応じて、介護タクシーを利用し入居前に住んでいた家へ行くこともあります。職員は利用者の表情や態度から事前に不安定になることを察し、利用者には不安な気持ちが伝わらないように支援しています。	入居時に聞き取った思いだけでなく、日々の支援の中で発見したことを気付きノートに書き留める等、思いや気付いたことを記録として残し、情報を積み重ねてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントは全スタッフが周知している。又、日々の会話から情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者(チーム介護)を決めて、情報交換を行い、現状を把握するように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>チーム介護をもとに、月1回カンファレンスの場を設けている。必要な時はその都度見直しを行っている。</p>	<p>日々担当チームで話し合い、課題を職員同士出し合います。課題が多く抽出されたり、6ヵ月毎の見直しが必要なケースは、月1回のカンファレンスで再度話し合います。家族の意向もホーム訪問時や来訪が難しい場合は電話で聞き取り、利用者の意向と共に介護計画に反映させます。変更した介護計画は、担当チーム全員で確認しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の記録は毎日記録し、各申し送りの場でスタッフに伝達している。 又、日々の記録を参考にし、ケースカンファレンスに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々にも生まれるニーズに柔軟に対応し、取り組んで行くように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>一人ひとりが充実した楽しい生活を送って頂ける様努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医もいるが希望や必要があれば他の医療機関への受診もして頂いている。	入居時にかかりつけ医の希望を確認しています。月1回の往診も定期的であり、必要であれば医療機関の通院を職員が支援します。医師の往診記録を職員全員で確認し、家族には受診結果を電話やお便りの他、家族の訪問時等に伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設として訪問看護と契約し、定期的に見て頂いている。訪問の都度近況を報告し、又今後の対応等を話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に訪問し、家族・病院関係者から現状の説明を受け、対処する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時から家族の考えを伺う様にし、状態の変化に応じ、家族・医師との話し合う場を設けている。</p>	<p>重度化に向け主治医の判断を踏まえ、家族や看護師、管理者で話し合い意向を確認しています。事業所内で重度化・看取りについて話し合う場を設け、重度化に向けた吸引等研修の申し込みもしています。実際、看取りも行っており、最後まで利用者を支え付き添っています。</p>	<p>足が遠のいている家族についても、看取りの意向や利用者の現状を伝えるための働きかけに努めています。これまでも看取りを何度も経験しているため、今後は事業所内で話し合いを深め、マニュアルも見直し、重度化や看取りについて具体的な対応等をまとめてはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○<b>急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故に対しての対応及び手順についてスタッフは理解出来ている。</p>		
35	13	<p>○<b>災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は年2回行っている。</li> <li>・火災に対してはスプリンクラー設置完了である。</li> </ul>	<p>避難訓練は年に2回実施し、消防団の協力も得て報告は消防署に提出しています。訓練時の課題も抽出し、スプリンクラーの作動確認も行っています。災害時における非常食の備蓄については、利用者の食事形態に合わせて用意しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者への迷惑にならない事も大切なので、それを留意した上で個々の対応に心掛けている。	個人情報保護対策マニュアルを作成し、個人情報保護を実践しています。日々のケアの中では、特に排泄介助の際、プライバシーへの配慮に心がけています。利用者の人格や誇りを損ねないためには、「利用者の言っていることを全て受け入れ認める」ことを管理者は職員に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の許せる範囲で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中での許せる範囲で、個々に応じた支援を行っていくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる人には自分で選べるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物、食べられない物がある場合は、代替りの物を提供している。	朝・夕食はホームで作り、昼食は仕出し弁当を配達してもらっていますが、ご飯はホームで炊いています。利用者の嚥下状態に合わせ、きざみ食やミキサー食を作っています。夕食の献立は、利用者の希望を取り入れ作ります。近日常に利用者からの要望でたこ焼きを作ることになり、利用者は楽しみにしています。重度化が進み、食事介助の必要な利用者が増え、職員と一緒に食事をするのができない状態ですが、朝食は一緒に食事をしています。	昼食は仕出し弁当を利用者は食べていますが、検食も兼ねて、職員が一人でも一緒に食べることを検討されたいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回の食事量・水分量は記録している。 ・個々に応じた形状を考慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけを行い、出来ない方に関してはスタッフが介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じてトイレ誘導、又は声かけを行っている。	立位の困難な人以外は、トイレ誘導をしています。各自の排泄パターンを把握し、時間を決めてトイレ誘導しています。排泄介助の際は羞恥心に配慮した介助を心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて服薬管理、及び水分摂取の声かけを心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回あるが、本人から又、一人で入浴出来る方がほとんどおられない為、スタッフが声かけ誘導を行い、介助して入浴して頂いている。	冬季には週2回、夏季には週3回の入浴できるようになっています。入浴できない日は、朝晩の更衣時に清拭し、清潔を保っています。排便が間に合わなかった場合等は、都度シャワー浴をして清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の状態により、臥床時間を設けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・訪問看護師と連携して、常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には進んで家事の手伝いを役割として行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個々からの希望は出て来ないが、外出機会を設けている。 ・家族との外出はいつでも可能であると家族様にも伝えている。	買い物や喫茶店への外出、花見の行事での外出等、外出の機会を増やす工夫をしています。今後は、利用者一人ひとりのその日の気分で、外出したい時に出かける支援をしていきたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々には渡していないが家族から預かって保管している事は伝えてあり、「必要な時は言って下さい」との対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	施設の電話はいつでも使って頂いても良いと伝えてあり、その様に対応出来ている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設として出来る限りの対応はしている。	2ユニットが共有できる広い居間と食堂が設定され、利用者はユニット間を自由に行き来しています。フロアにある畳のスペースが活用されていないと家族から意見があり、バリアフリーにしてソファを置き、利用者のくつろぎのスペースを作りました。快適で安全な生活のために清潔にも気をつけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間は基本、自由に行き来して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人(家族)のお好きな様にレイアウトして頂いている。	馴染みの家具や置物、写真を持ち込み、居心地の良い居室づくりを工夫しています。自力歩行が困難な利用者は、特に安全な居室づくりに配慮しています。利用者が自身の居室を生き生きとした表情で案内しており、居室はその人の暮らしを尊重した設えとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は自分で行って頂き、行き過ぎた介護にならない様に努めている。		